

第2回 東区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成26年12月24日（水）午後1時30分から午後2時30分まで
会場	東区プラザ ホール
出席者	<p>東区自治協議会委員 出席25名 東区小中学校PTA連絡協議会 出席3名 教育委員 齋藤教育委員，藤田教育委員，佐藤教育委員 事務局 教育長、教育総務課長・課長補佐，生涯学習課長・地域連携室長， 東区教育支援センター所長，教職員課管理主事，学校支援課長補佐 3名，中地区公民館長，</p>
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育委員代表挨拶 藤田教育委員 3 出席者紹介 4 テーマについて 「地域と学校の連携について」 事務局説明 5 事前質問への回答 6 意見交換 <p>自治協委員 資料にふれあいスクールの記述があるが，子どもの放課後の活動に関して，ひまわりクラブのコミ協への委託については，現在どんな状況になっているか。 また，「ゴミ捨て」という表現は，「ゴミ出し」に改めてもらいたい。</p> <p>教育委員会事務局 ひまわりクラブは，担当が福祉部の子ども未来課ですので，知り得ている情報だけお答えします。東区では，木戸小学校と山の下小学校の2クラブ3施設がコミュニティ協議会への委託で運営しています。他の区にはありません。</p> <p>自治協委員 福祉部とか担当課が違うのは分かります。子どもへの対応は横の連携をとり，きちんとやってもらいたい。</p> <p>教育委員会事務局 生涯学習課と子ども未来課とが定期的に情報交換を行っています。先週は，放課後子どもプラン推進委員会を開き，放課後の子どもたち</p>

の過ごし方について互いにどんな連携をとっていけばいいかについて情報交換を行いました。今後、ふれあいスクールとひまわりクラブが一体的に運営できないかを検討しているところです。

自治協委員

先生方によって指導のレベルが違っている状況がある。机に座っている子どもに注意したら、学校でも机に座っているし、先生も注意しないということを知った。保護者からも学校によって、学級によって指導の仕方が違うということを知っているが、どういう状況なのか。

教育委員会事務局

机の上に座っているという事象は許されないことですので、指導が足りなかったと思います。教育委員会では、指導の差が出ないように様々な研修を通して、適切な指導ができるように教職員への指導をしています。皆様からも情報提供やご指摘いただき、改善していきたいです。

自治協委員

新潟市、東区には、所在不明児童がいるのか。

教育委員会事務局

所在不明児童の報告は受けていません。各学校で欠席が続いた場合には、必ず親御さんと連絡を取り合うようになっています。子どもが家から出たという場合も、所在を確認して、教育委員会に報告が来ることになっています。

自治協委員

提出したテーマに関する質問がややぼけているようなので、確認する。学校は、今も昔も地域の教育の拠点として機能している。地域と学校との連携の中で学習環境の充実と、安心・安全な学びの場が保障されている。「ふれあいスクール」は、放課後の子どもたちの活動の場として喜ばれている。

しかし、放課後の学習支援となると学校では難しい。地域で支援しているが、子どもたちは、大学生から頭の柔らかい学習支援をして欲しいと考えている。大学生の支援が、子どもたちを生き生きとさせている場面を目にしている。大学生にとってもいい経験の場となっている。子どものためにも、大学生の将来のためにも交通費等を配慮するなどして、大学生が学習ボランティアとして活動できる支援はできないか。

教育と福祉は地域でやるというのが市長の方針である。学校での福

祉教育が適切に行われる仕組みを、区の複数課でかかわって検討してもらいたい。総合受付があってしかるべきではない。

また、公民館が遠いので、近くの学校施設を利用して公民館事業を行うなど、せつかくの施設を使い切る発想で、子育てに不安のある保護者や高齢者の心や体の健康保持を助ける事業を、学校と連携しながら計画的に実施し推進してもらいたい。

地域と学校の連携のあり方は、地域・学校の特性に応じて行われるべきである。そのための学校やPTAと地域とに話し合いの場に、教育支援センターや関係各課から顔を出してもらい、東区の教育の発展に寄与してもらいたい。

また、地域のモンスター的な問題については、教育委員会が振り回されることなく、地域におろしてもらい、地域解決する方がうまくいくと考えている。

教育委員会事務局

ふれあいスクール事業、パートナーシップ事業は、多くの方からかかわってもらっています。大学生は年齢も近いこともあり、より柔らかい感じで、子どもたちともしっかりいっています。年配の大人の方もいい関係を結んでもらっています。

県立大学には、春先に伺い学生に直接事業を説明し、協力を依頼しています。例えば、大形中学校では、5人の大学生が指導者となり土曜学習教室を実施しています。ふれあいスクールでも何名か来ていますので、今後とも学生に対する配慮を考えていきます。

教育委員会事務局

地域の教育については、皆さんと一緒に考えてもらい、こちらで作れるものは作る。お手伝いできるものは、お手伝いできるという姿勢で、皆さんの願っていることが実現できるように支援をさせていただこうと思っています。一つ一つにつきましては、ご要望いただいた事案に応じて動きますので、窓口として教育支援センターをご利用ください。

自治協委員

地域と学校の間はまだ壁がある。地域とのふれあいのいい方法がないのか。

今年度、学校と一緒に防災訓練を進めている。教育委員会からは、学校に、地域を巻き込んだ防災訓練を実施するよという文書があったが、その際現場では、突然のことで、何をしたいのかとか地域とどうつなげればいいのか分からないということで混乱していた。学校だけでなく、コミ協の方にも文書を出してもらえれば、スムーズ

につながられたと思っている。PTAや地域、学校職員が一生懸命考えて取り組んだ学校もあったが、全部おんぶに抱っこといった学校もあり、取組の学校格差がある。コミ協を窓口としていただければ、必然的に集い、話し合うことにつながると考えられる。

教育委員会事務局

今回は、県の防災プログラムに基づいて、6年間で順次、地域とかかわって防災を進めていくという取組の初年度でしたので、学校も教育委員会もノウハウがよくわからない状態でした。学校の方には、学校の実情に合わせて実施してもらいたいと指示したのですが、地域も初めてのことで、混乱が生じたのだと思います。今後は、ご紹介いただいた学校等のいい取組の事例を示したりしながら、学校及び地域に対しても丁寧に説明しながら、推進していきます。

自治協委員

文章中に「ゴミ捨て」とあるが、「ゴミ出し」という認識で子どもたちに教育をしていってもらいたい。

教育委員会事務局

質問の文面通り記載したために、このような表現になりましたが、今後訂正していきます。

7 自治協議会第2部会長挨拶

8 閉会